

イベントレポート『2012 GT耐久東海シリーズ 第2戦』

開催日 2012 年 5 月 20 日(日)

9:30 決勝スタート 12:25 チェッカー

天候 曇り

最高気温 22.1℃(12 時)

場所 スパ西浦モーターパーク

参加台数 31 台

2012 年GT耐久東海シリーズの第2戦が5月20日に愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。

曇り空で日差しは無かったものの、5月の過ごしやすい気温も相まって絶好のレース日和となった。

昨年までは義務ピットイン時の時間管理をタイムカードで行なっていたが、今シーズンからは計時上のラップタイムでの管理に変更となった。これによりピット停止時間はチーム戦略の一つとなったが、僅差での争いにおいては、この戦略の成否が結果を左右しそうである。



■「1+2C」クラス(1500cc 以下の NA 車と、1200cc 以下の過給機付き車のクローズドクラス)

このクラスは小排気量車両がエントリーするが、中でも 1000cc 以下のNA車は「義務ピット時間が 2 分短くなるハンディー」をもらうことが出来る。

今シーズン初エントリーとなる#27「ルブロスPROFITヴィッツ！」は 990cc であるため、このハンディーが適用される。

このクラスは、開幕戦で優勝した#41「DXLシーワンNチームシティ」と、開幕戦での転倒から見事復活してきた#449「金沢工大自動車部ストーリーア」を含め 3 台での争いとなった。



■予選

予選 1 番手のタイムを記録したのは、学生チームの#449「金沢工大自動車部ストーリーア」。タイムは 1'08.077 をマークする。

2 番手には#27「ルブロスPROFITヴィッツ！」が 1' 11.118 で続き、前回優勝の#41「DXLシーワンNチームシティ」は 1'11.639 でクラス 3 番手からのスタートとなる。



■序盤

予選 1 位からスタートの#449「金沢工大自動車部ストーリーア」は、序盤快調なペースで周回を続ける。スタートから 1 時間経過時点でも 1 位の座をキープし、周回数は 40LAP を記録する。

2 位には#41「DXLシーワンNチームシティ」が浮上してくる。トップから 1 周ダウンの 39LAP に付け、1 位を射程圏内に捉えての走行となる。

#27「ルブロスPROFITヴィッツ！」も 3 位ながら、2 位と同一周回の 39LAP を走行。この時点ではほぼ三つ巴状態となる。



■終盤

1 時間時点でトップを走行していた#449「金沢工大自動車部ストーリー」であったが、1 時間 10 分が経過したところで突然のスローダウン。無念の 2 戦連続リタイヤとなってしまう。

2 時間経過時点では#41「DXLシーワンNチームシティ」が 71LAP でトップに立つ。しかし 2 位の#27「ルブロスPROFITヴィッツ！」は 70LAP に付けており、ラスト 1 時間での勝負となる。

■最終結果

僅差での争いを制しトップでチェッカーを受けたのは、#41「DXLシーワンNチームシティ」であった。93LAP を走行し、追いつがる#27「ルブロスPROFITヴィッツ！」を 1 周差で振りきった。

#27「ルブロスPROFITヴィッツ！」はピットタイムハンディーを最大限に活かしたが、惜しくも優勝には手が届かなかった。

今回箱替えで臨んだ#449「金沢工大自動車部ストーリー」だが、序盤はトップを走行していただけに悔しいリタイヤとなった。

このクラス、エントリー台数は少なめではあるが、各チームの実力が拮抗しているだけに、第 3 戦以降も僅差の争いとなりそうである。



■3Cクラス(1501cc 以上の NA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクローズドクラス)

前回開幕戦では 10 台がエントリーし激戦となった3Cクラス。今回はさらに多い 12 台のエントリーとなる。

開幕戦は雨の中でのレースであったため、パワー的に不利なマシンが上位に來たりと、ドライ時のレースとは違った展開が見られた。今回は終始ドライでのレースとなり、パワー的に有利なVTEC勢が上位を占めることになるのか。

■予選

予選 1 位となったのは、開幕戦の優勝チーム#28「野村俊和爆笑誕生日スターレット」。おどけた車両名とは裏腹に、1'02.572 のタイムをマークして、総合でも 3 番手となるグリッドをGETする。

2 位には今年初参加となる、#51「ヒロエンタープライズEF9」が 1'03.287 のタイムで入ってくる。

3 位は前回 4 位の#106「D&Mプジョー106」が 1'04.348 で、4 位は前回準優勝を収めた#450「味長持ち 3 時間アコード」が 1'04.868 で続く。

以下 5 位に 1'05.086 で#960「TeamKRS WM DL EG6」、6 位に 1'05.633 で#75「DXL SPMシーワンEP82」と続いた。

■序盤

1 時間が経過した時点での 1 位は、なんと予選 11 番手からスタートした#52「ヒロエンタープライズDC2」がスーパージャンプアップ。周回数は 46LAP を記録する。

2 位には 1 番手スタートの#28「野村俊和爆笑誕生日スターレット」が 44LAP で、3 位には#51「ヒロエンタープライズEF9」が 43LAP で続き、スタート上位チームが好位置をキープし続ける。

42LAP での 4 位には、予選 8 位から大きく順位を上げた#111「S'tecAE1ファジートレノ」が入ってくる。

5 位から 7 位までも 4 位と同一の 42LAP を走行。5 位に#960「TeamKRS WM DL EG6」、6 位に#75「DXL SPMシーワンEP82」、7 位に#830「WM CLNシビック」のオーダーとなる。

■終盤

2 時間経過時点では予選 1 位スタートの#28「野村俊和爆笑誕生日スターレット」が再び 1 位に浮上してくる。周回数は 78LAP となる。

2 位もまた予選の順位そのままに、#51「ヒロエンタープライズEF9」が続き、77LAP でトップと僅差に付ける。

3 位と 4 位は 76LAP で、#106「D&Mプジョー106」、#111「S'tecAE1ファジートレノ」が続き、激しい表彰台争いを繰り広げる。

75LAP を走行したのは、5 位の#830「WM CLNシビック」1 台であったが、続く 74LAP には、#75「DXL SPMシーワンEP82」、#450「味長持ち 3 時間アコード」、#52「ヒロエンタープライズDC2」、#960「TeamKRS WM DL EG6」の 4 台が並び、6 位入賞を掛けてラスト 1 時間に臨んだ。



■最終結果

激戦の3Cクラス。トップでチェッカーを受けたのは、予選 1 位からスタートした#28「野村俊和爆笑誕生日スターレット」で、周回数は 103 周であった。ピットのタイミングにより、序盤一時的に 2 位のポジションになったものの、実質的には終始 1 位の座をキープし、開幕から 2 連勝を飾った。

2 位でフィニッシュしたのは、#111「S'tecAE1ファジートレノ」。102 周を走行し、昨年第 2 戦以来の嬉しい表彰台となった。

3 位には 2 位から遅れることわずか 10 秒で、#830「WM CLNシビック」がチェッカーを受けた。

4 位には終盤に順位を上げてきた#75「DXL SPMシーワンEP8 2」が、101LAP で続いた。

終始トップを捉える位置にいた#51「ヒロエンタープライズEF9」であったが、最終的には 100LAP の 5 位でフィニッシュとなった。

以下 6 位に 100LAP の#450「味長持ち 3 時間アコード」、7 位と 8 位は 98LAP で#36「剛式レーシング318is耐久号」、#106「D&Mプジョー106」と続いた。

ウエットでもドライでも速さを見せた#28「野村俊和爆笑誕生日スターレット」。第 3 戦以降もこの勢いは続くのか、もしくは連勝ストップが現れるのか。



■OPクラス(排気量区分無しのオープンクラス)

改造範囲の広いOPクラスは、今年から排気量の区分けが無くなった。このためシティ、マーチ、スターレットといった小排気量車から、シビック、86といったライトウエイト車、そして180SXなどの2Lターボ車までが同じ土俵の上で戦うことになり、今回は過去最多となる16台のエントリーが集まった。

開幕戦はウエットコンディションであったが、優勝したのは小排気量車のスターレット。しかし今回は完全ドライの路面状況。果たして大排気量車の巻き返しなるか！？



■予選

予選ベストタイムをマークしたのは#18「T-BODY エクセルインテグラ」。総合でもトップとなる1'01.695をマークしてポールポジションをGET。スターティンググリッドでのレースクイーンとの2ショット撮影権を獲得する。

同じくグリッド最前列となる2位を獲得したのは#83「URG WM CLNシビック」で、タイムは1'02.146をマーク。

3番手に入ってきたのは小排気量車の#110「DXLアライメント浜松シティー」。1'02.639でグリッド2列目のポジションに付ける。

4番手は開幕戦で惜しくも準優勝に終わった#6「ソーワフレミングシビック」でタイムは1'03.627をマーク。

以下、5位にはシビック4ドア車でエントリーの、#96「TeamKRS制動屋DL EG9」が1'03.749で、6位には小排気量の#84「浜松日産withメビウスマーチ」が1'04.056で続く。

ちなみに7位の#56「RS正和ナフティースターレット」は1'04.537、8位の#2「NGRSレビン」は1'04.598、9位の#180「M. M. S180SX」は1'04.857と、従来なら上位に入りそうなタイムを残すものの、エントリー台数が多いために中盤の順位に甘んじてしまう。



■序盤

ポールスタートの#18「T-BODY エクセルインテグラ」は快調なペースで決勝を走り始めたが、わずか10週の時点でコースアウト。早々に上位争いから脱落してしまう。

1時間経過時点では、1回目のピットを先送りした#84「浜松日産withメビウスマーチ」が48LAPで1位に立つ。

2番手以下は既に1回目の義務ピットを終えているため、約5LAP周回数が減る計算となる。このため2位に付けていた#83「URG WM CLNシビック」は44LAPではあったが、ピット時間を考慮すると実質の1番手となる計算になる。

そして3位から7位までの5チームが、43LAPの同一周回で続く。

3位に#6「ソーワフレミングシビック」、4位に#110「DXLアライメント浜松シティー」、5位に#96「TeamKRS制動屋DL EG9」、6位に#80「ハガクリニク シンワ サクソ」、7位に#2「NGRSレビン」というオーダー。

8位の#56「RS正和ナフティースターレット」と9位の#180「M. M. S180SX」も42LAPに付け、6位入賞圏内を目指して多くのチームがしのぎを削る。



■終盤

2 時間経過時点でも#84「浜松日産withメビウスマーチ」がトップのポジションを走り続ける。周回数は 79LAP をマーク。

しかし 2 位の#83「URG WM CLNシビック」も、同一周回に付けてくる。

3 位には 78LAP で#110「DXLアライメント浜松シティー」が続く。

4 位と 5 位は同一の 77LAP で、#180「M. M. S180SX」、#6「ソーワフレミングシビック」というオーダー。

6 位の#2「NGRSレビン」は 75LAP と、5 位から少し周回が開く。

しかし 7 位の#96「TeamKRS制動屋DL EG9」は 74 周、8 位の#56「RS正和ナフティースターレット」は 73 周と、入賞圏内を掛けた争いが激しさを増す。

■最終結果

終盤にピットタイミングを味方に付けた#110「DXLアライメント浜松シティー」が、逆転で優勝をものにした。周回数は 105LAP であった。

終盤までトップ争いを繰り広げていた#83「URG WM CLNシビック」であったが、ピット運を味方に付けられず 103LAP の 2 位でチェッカーを受けた。

3 位はピット運に恵まれた#96「TeamKRS制動屋DL EG9」が 103LAP でゴールし、シリーズポイントをトップにまで伸ばした。

4 位には終始トップのポジションを走り続けた#84「浜松日産withメビウスマーチ」が 102LAP でゴールする。4 位ではあったが、小排気量車ながら見事なレース展開を見せた。

5 位と 6 位は共に 101LAP。この争いを制したのは#6「ソーワフレミングシビック」で、#180「M. M. S180SX」は惜しくも 6 位となる。

開幕戦優勝の#56「RS正和ナフティースターレット」は 99LAP での 7 位、また開幕戦 5 位の#17「カムコ1. 3改スィフト」は 97LAP での 8 位に終わるなど、第 2 戦の戦いの厳しさを伺わせる結果となった。

シリーズポイント争いでは抜きん出たチームが現れておらず、しばらくはポイント争いが混沌としそうである。



